

福井市中心市街地活性化基本計画 第4回策定委員会 議事録（概要版）

日 時	2006年3月22日 16:00~18:20
場 所	福井ワシントンホテル 天山の間（3F）

議 事	
事務局	資料説明（資料0～5）
委員	目標年次である平成23年度の福井市の状況はどのようになっているのか。目標3で歩行者通行量の2割増を目標としているが、どのような手段で来街するのか。目標1で鉄道利用者5%となっているが、歩行者通行量を2割増やすためには自動車などを移動手段とする来街者が相当数必要となる。
事務局	歩行者通行量の2割増という目標は、上位計画である総合計画の中で位置付けられているので、本計画ではこれを受ける必要がある。 また、目標3の数値の積み上げについては、中心市街地内の拠点となる施設を設置することによって、そこへ新たに来街する方を歩行者通行量増加の根拠としている。また交通手段として、えちぜん鉄道のLRT化などの取り組みによって鉄道乗車数が増加することを想定している。また鉄道利用割合について、パーソントリップ調査の平成17年の値がそのまま推移すると仮定しており、その上で鉄道乗車数5%増と試算している。
委員	目標で設定している来街者の増加は、市外、又は県外の方を対象としているのか。資料に他に管理する指標がいくつか掲載されているが、この部分を国に提示する、しないは別にして、福井市としてしっかりと管理していく必要がある。また毎年度指標について把握していく必要がある。
事務局	来街者の層について、他に管理していく指標の中で把握していきたい。 指標の把握の頻度については、基本的には毎年度把握して行きたいと考えている。
委員	目標1、3について、目標1はハード整備、目標3はソフト整備というイメージを持つ。その中で、目標1ではイベント・コンベンションを把握していくとなっているが、目標3ではないのか。また、目標3は年間販売額、売場面積等など商業関係の指標だけでなく、例えば響のホールの稼働率などを把握する必要がある。
事務局	目標1の訪れやすい環境づくりを行っていくためには、まず、訪れる目的をつくっていく必要があるとの認識を持っており、その意味で目標1において、来街目的となるイベント・コンベンションを把握していくという位置づけをした。 また、響のホール、AOS SAの利用については、同様に来街する目的になるので、目標1の中で把握していきたいと考えている。
委員	事業所数、従業者数等の指標をみると、現実には非常に厳しいという認識を持っている。この点について、どうして行かなければならないのかを考えていく必要がある。将来像について、賑わい創出ゾーンについてはこれから形成していく必要がある。そのためには、文化施設の立地を図っていく必要がある。
事務局	事業所数、従業者数の減少は、深刻であると認識している。商工サイドのほうで何らかの対応をしていくと思われる。

	文化施設については、現段階では、再開発などの実施によって必要な床を確保していくような考えを持っている。
委員	親子連れで一緒に遊ぶことができる場所として、エンゼルランド福井では年間33万人が利用している。こういった施設がまちなかにあると、親子連れで来街するのではないかと。 また、東京にキッズニアという、様々な職業体験が可能な子ども向けのテーマパークがオープンした。福地域の活性化という視点も含めて、企業ぐるみでこのような取り組みができないのかと思う。
委員	中心市街地には、お年寄りと中高校生が多くみられ、親子連れは少なく、郊外のショッピングセンターへ流れているというのが現状ではないかと。 福井の中心市街地は、大名町交差点を中心に大きな都市計画道路で区切られている。大きな通りが逆に歩きにくい状況をつくっているのではないかと。 賑わい創出ゾーンについて、特にゾーンの南側については、今後商店が集積していくことは難しいのではないかと。もっと絞っていくことが必要ではないかと。さらに、フェニックス通り沿いに今後えちぜん鉄道（LRT）が走行するのであれば、この通り沿いの商店街等がどのように展開していくのかを将来像の中で考えても良いのではないかと。
委員	西口再開発は平成23年度に完成することを考えると、事業の実施時期と目標数値との整合性がとれているのか。
事務局	西口再開発の完成年度は目標年次と同じ平成23年度であるが、平成23年度が終わるまでに数ヶ月程度の余裕があるので、目標数値達成の根拠としてカウントできる。
委員	本計画において、概ね5年間で事業着手できる割合はどの程度あるのか。 熟度の低い事業までを盛り込んでしまうと、計画の実効性が低下する恐れがあるのではないかと。国はどの程度の確実性を求めてくるのか。
事務局	申請前の国との事前協議の中で事業の熟度が問われてくる。基本的には、今回計画について市と国がお互いに実施に向けた責任を持つことになり、本計画に盛り込まれた事業を実施していく責任をもつことになる。
委員	響のホールやAOSSAについて、中心市街地の核になりきれていないような気がする。中心市街地に核となるような施設が必要である。
委員	目標1で主要拠点施設から何かを「発信する」という視点、施設をどれくらい利用させているのかという視点から「稼働率」という点からの把握が必要である。 活性化事業について、響のホールやAOSSA等で市民がイベントを実施する場合には無料にするなどの思い切った対応が必要である。
委員	中心市街地に若い方の姿があまり見られないので、親子連れで行けるような施設が必要である。親子と一緒に遊ぶことができるような施設が必要である。
事務局	福井駅高架下利用促進事業の中で子どもが遊ぶことができるような機能導入の可能性について現在検討している。
委員	お年寄りを一時預かるような施設が欲しい。例えば、中心市街地へ買い物に行くときに、お年寄りを1人家に残していくのは心もとないので、お年寄りを一時預けて、響のホールやAOSSAへ行くことができればよい。

	<p>夜景の活かした魅力あるまちづくり事業について、例えば7時過ぎに中心市街地に出てきても、休憩する場所や喫茶店などが閉まってしまう。商店街の方々も自助努力でできることを考えていかなければならないのではないかと思います。</p>
委員	<p>時間延長については、対応できる店とできない店がある。高齢の経営者が経営している店が多いので、夜遅くまで営業することについては限界がある。そのためにも賑わいをつくって、若い方々に引き継いでもらうことが必要である。</p> <p>A O S S Aをみていると、2階部分の商業施設部分のフロアが埋まっていない。ハコ物をつくっても、どのように活かしていくのかを考えていく必要がある。</p>
委員	<p>今と5年後と何が違うのかということ考えたとき、西口再開発が平成23年度に完成するまでの間はA O S S Aだけになってくる。それだけで中心市街地が活性化していくのか。どのような機能を市民が望んでいるのか、必要な機能を把握・誘致していくことが必要である。</p> <p>電車通りについて、公共交通によってお客を商店街の近くまで来てもらうことができることについては、大変ありがたいが、商店街のメインストリートに、そのまま鉄道が入ってくるのが良いのかどうかという議論がある。</p>
事務局	<p>中央通に移した場合、現在県が実施している地下駐車場の出入り口との関係から難しいと考えている。また、現在のバスターミナル付近に持ってくるという意見もあるが、これについては、駅前広場に移動するが、バス事業者から、一部残したいという意見がある。また商店街にとっても、近接したところにバス停があることのメリットがあることから、そういった問題を解決する必要がある。</p> <p>また、市としては自動車を排除するという考えではない。かつて、社会実験としてトランジットモールを実施したが、結果として車道を狭め、歩道を広げるという現在の形になっている。そういった意味で基本的には現在の電車通りに電車が通っていることについては理解が得られていると認識している。</p>
委員	<p>一番懸念するのは、えちぜん鉄道が乗り入れたときに、電車の本数が増えて事故や増え、さらに、事故が起きないように車道と鉄軌道の間には柵などができて、商店街が分断されるのではないかとこの恐れがある。</p> <p>また、中央商店街を賑わいゾーンと位置付け、時代行列などの様々な催し物を実施することを考えたときに、本当に弊害にならないのかということ懸念を持っている。</p>
委員	<p>電車通りをめぐる市と商店街との議論は十数年来続いているが、うまくかみ合っていないのではないかと。市は交通計画などに基づいて考えているのに対し、商業者はビジネスの点から考えている。ともに間違っていないと思うが、同じ物差しで議論することが必要ではないかと思う。</p> <p>また、福井城址について、中心市街地の中で、相当な面積を示しているのに橋の整備だけではさびしい気がする。</p>
事務局	資料説明（資料6）
委員	<p>来街者を増やすために、来街する目的を作っていく必要がある。福井の場合、「食」ではないか。「食」を中心として戦略的な展開が必要ではないか。</p>
委員	<p>こういったものについては、経済界あるいは活性化協議会がどのように取り組んでいくのかについても考えていくことが必要になってくる。</p>

委員	<p>活性化協議会では、あくまでも本委員会での検討を受けて意見を言うことになっている。ただ、活性化協議会で意見を言う場合には、その意見に対して責任を持って欲しいと言っている。それだけ重要な会議であると考えている。</p> <p>来街手段について、L R Tなどの取組みを進めるのであれば、鉄道分担率を増やすようなことも考えなければならない。</p> <p>一つ一つの事業について実現可能なかどうか、また目標値が十分達成可能なのか十分検討していく必要があり、活性化協議会の位置付けは重要であると考えている。</p>
委員	<p>今までに、委員会等で福井はこうあって欲しいと決めたことが、逆に福井市にとってマイナスになっていることもある。行政の責任でもあるが、民間の責任でもある。今回計画において、例えばL R T化は面白い施策であると思うが、これを成功させなければならない。そのために吟味しなければならない。</p> <p>今回の組織改革の特徴は、都市戦略部を作って、政策をトータルに実施していこうとしているのではないか。例えば歩行者通行量が回復するように総合的に取り組んでいかなければならない。</p>
委員	<p>まちづくり三法を改正する際に、国土交通省は悪い都市(県庁所在都市)として、福井市と秋田市を事例に挙げている。国は福井や秋田の事例をもとに、どのようにすれば活性化するのかを検討している。今後、国と協議していく際には、より高いレベルのものが求められてくると思われる。その意味で、どのような理由で衰退してきたのか、それに対して何をどのようにしていくのかについて説明をしていかなければならない。福井市は戦災・震災後区画整理によって市街地を形成してきたという冠たる歴史があるが、ここ10年は区画整理によって福井市をだめにしてきたということを認識する必要がある。</p>
事務局	<p>(「その他」について説明)</p>